

■ エゴノキ・・・



今月は、「花便りの看板に偽りあり」の謝罪から始めなくてははいけませんね。

エゴノキの花は、梅雨の頃、下向きに鈴蘭のような白い花を咲かせます。本来は、その可憐で清楚な美しさを特筆すべきですが、今の季節の、卵円形で灰白色の小さな実がコミカルな風情でぶら下がっている姿も個性的なので取り上げました。すでに、集会所周辺では、そのうちのいくつかは黒茶色の実が弾け落ちています。ご年配の方には、これを入れて作ったお手玉が小豆等の豆より虫がつかず、シャキシャキと良い音を立ててくれたものだとの記憶をお持ちの方もいらっしゃるでしょう。

ところで、「エグい」という言葉を聞いて、どんな意味を連想されますか？ 「エログロ」のイメージとも重なって、「気色悪い・気味が悪い」のような意味で最近では捉えられることが多いようですが、本来は「あくが強く、喉や舌を刺激するような味がする」の意味で、古来のりっぱな日本語です。そして、この言葉がそのまま「エゴノキ」の語源となっています。

エゴノキの実の果皮は、サポニンを含み麻酔効果があり、実をすりつぶして川に流して浮いてきた魚を捕ったとか、泡立つ性質から石鹸の代用にしたとか言われていますが、それほどの効果があったとは思えません。しかし、間違ってその果実を口にしたら、間違いなく喉や舌を刺激してかなり「えぐい」はずです。

最後に、西武池袋線「江古田」駅は「えこだ」と読み、大江戸線「新江古田」駅は「えごた」と読むことはご存知だと思いますが、どうしてこのような違いが生じたのでしょうか。興味がそそられますが、それはさておき、「江古田」の地名がエゴノキに由来しているという説が有力です。実際、江古田駅近くの区立旭丘小の校歌の一節にも「えご花咲きし昔偲べば」とあります。

蛇足ながら、当団地のエゴノキには、相当数の虫こぶ（ゴール・中えい）ができています。昔から「えごの猫足」と呼ばれるもので、うす黄緑色をしたバナナの房のようなものです。アブラムシの一種「エゴノネコアシアブラムシ」が成虫になるまで寄生しているのです。少々興奮めですね。

